



なぜ道産品を輸出するの？

日本では、少子高齢化の進行により国内の食市場は今後さらに縮小すると見込まれている一方で、アジアなどの新興国を中心に、世界全体の食市場は大きく拡大すると予想されています。

また、「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録や近年の海外における日本食レストランの急増などにより、日本の食文化が海外で受け入れられるようになっています。

本道の農業にとっては、近年の来道外国人客の増加などに伴う海外からの本道の食に対する関心の高まりといった好機を捉え、輸出を促進することにより農業生産の持続的な発展を図ることが重要となっています。

道産農畜産物等の輸出拡大に向けて食を通じて「北海道」の魅力を発信しています。



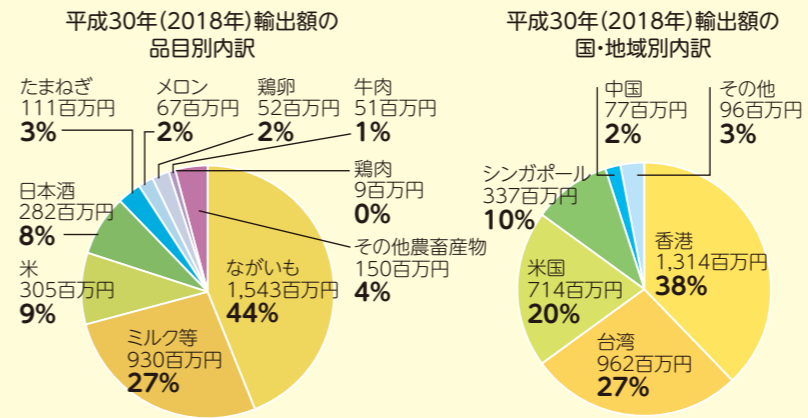
コンファ農業教室

北海道からの輸出の現状

北海道で生産されるたくさん農畜産物やその加工品が海外に輸出されています。

その輸出額は、平成25年(2013年)の約23億円から平成30年(2018年)には約35億円と、5年間でおよそ1.5倍に増加しています。

品目別では、輸出の主力品目であるながいもの平成30年(2018年)の



海外でも人気の北海道産！



国内で多くの人々が口にしている北海道産の農畜産物が、海外でも人気があることを知っていますか？

行政や生産者の皆さんが一体となって進めているクリーン農業や有機農業の実施、良質な農畜産物を生産する関係者の努力により、道産の農畜産物などが海外、特にアジア地域において安全・安心で美味しい「北海道ブランド」として浸透してきています。

今後、輸出を拡大していくためには、「北海道ブランド」として国内外の産地との差別化を図るとともに、より良質な農畜産物を生産し、安定的に提供することにより、ブランド価値を高めながら、さらに認知度を高めていくことが重要となります。

■本道の農畜産物等の輸出数量・輸出額の推移(単位:t、百万円)

品目	平成25年		平成30年	
	数量	金額	数量	金額
ながいも	4,677	1,498	4,353	1,543
ミルク等	2,325	463	4,036	930
たまねぎ	196	11	1,905	111
米	225	75	889	305
メロン	34	17	103	67
牛肉	1	5	11	51
鶏卵	40	8	172	52
鶏肉	122	26	48	9
日本酒	43,077	43	45,504	282
その他	893	181	348	150
合計	8,513	2,327	11,866	3,500

資料:財務省「貿易統計」
 ※注:日本酒については、単位がℓのため数量の合計には合算していません。(金額の合計には含む)

輸出額が約15億円となっており、ロンライフ牛乳や乳製品、米、米を原料とする日本酒、たまねぎ、メロン、鶏卵、牛肉などが輸出されています。

また、主な輸出先では、香港の約13億円を筆頭に、台湾、アメリカ、シンガポールが多くなっており、これら4つの国・地域で全体の9割以上を占めています。

(※輸出額は「貿易統計」による道内の空港港から輸出された金額)

北海道の輸出拡大の取り組み

道では、平成30年(2018年)12月に「北海道食の輸出拡大戦略(第Ⅱ期)」を策定し、令和5年(2023年)までに道産食品輸出額を1,500億円に、このうち農畜産物等の輸出額を12.5億円にすることを目標としました。

この戦略に基づき、国内の食料自給率の向上に貢献しつつ農家所得の向上を図るため、米、日本酒、青果物、牛肉を重点品目として、品目ごとに海外でプロモーションや商談会などを実施したり、輸出拡大に向けて取り組む産地を育成するなどの取組を進めています。



令和元年12月
中国・上海市
商談会の様子

